

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
90217	映像論研究 (偶数年度開講)	2単位 前期 (集中)	1・2	講義	野村 康治(非) 仲本 賢

## ■テーマ

映像に対する客観的視点を養う

## ■授業の概要

映像はときに視覚以外の感覚情報を含むが、やはり視覚情報を抜きに語ることのできない表現である。従って、視覚に関する理解は映像作品、映像メディアの理解にも欠かせないものといえよう。そこで本授業では、まず科学的知見に基づいて視覚メカニズムを説明し、人間がいかにか「映像を視る」のかについて述べる。そして、人間がいかにか映像作品の内容をとらえ、理解していくのかという映像認識に関する問題を取り上げる。参考映像視聴を多用しながら、人間と映像との関わりを科学的な観点に立ち、多面的に解説し、映像とは何かを考察していきたい。人間の視る機能や認知のメカニズムを理解した上で、映像による情報伝達、人間と映像とのかかわりについて思索し、理解してほしい。

## ■到達目標

- ・映像を認識するメカニズムに関して学術的知識を習得する。
- ・映像作品に対する客観的論考ができるようになる。
- ・映像と人間との関わりが理解できるようになる。

## ■授業計画・方法

- |                         |                           |
|-------------------------|---------------------------|
| 1. 映像とは(映像を視るということ)     | 9. 映像操作がもたらす心理的効果         |
| 2. 視覚の生理学的基礎            | 10. 映像編集がもたらす心理的効果        |
| 3. 色覚と色の印象              | 11. 映像と人間発達との関連1(乳児期～青年期) |
| 4. 形をとらえるということ          | 12. 映像と人間発達との関連2(青年期以降)   |
| 5. 視覚表現と人間の知覚特性         | 13. 映像が人体に及ぼす影響           |
| 6. 空間知覚と映像における空間表現とその印象 | 14. 映像と心の病理               |
| 7. 運動知覚と映像における動き表現とその印象 | 15. 授業のまとめ及びレポート提出        |
| 8. 映像情報の心的処理            |                           |

定期試験は実施しない。

※芸術文化学研究科(博士課程)の学生には、上記日程以外に別の日程で映像論に関する文書、書籍の講読を課題として与え、これらに関する解析と論考を行なうレポートを課す。また発表会を設け討論を行なう。

## ■履修上の留意点(授業以外の学習方法を含む)

・授業では参考映像を提示するが、授業時間内に提示できない映像資料もある。授業で紹介した参考文献、参考映像資料について授業時間外に図書室等で検索、視聴することが望ましい。なお、レポートを課すので、調査、検討し期限内に提出すること。

## ■成績評価の方法・基準

### 【方法】

- ・平常点25%・コメントペーパー25%・レポート50%で総合的に評価する。
- ・レポートは2課題とする。

### 【基準】

到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。平常点は授業時の発言など授業参加の積極性などによって評価する。また提出されたコメントペーパーやレポートによりその理解度を評価する。なお、芸術文化学研究科(博士課程)の学生には、専門家としての独創的かつ学術的な達成を求める。

## ■教科書・参考文献(資料)等

### □参考文献

- 『見てわかる視覚心理学』2014/4 大山 正(著)、鷺見 成正(著)  
『映像の心理学—マルチメディアの基礎(新心理学ライブラリ(S1))』1996/6/ 中島 義明(著)  
『映像心理学の理論』2011/11 中島 義明(著)  
『アニメーションの臨床心理学』2006/8 横田 正夫(著)  
この他、必要に応じて授業時に指示する。